

政府・東京電力統合対策室合同記者会見

日時：平成23年6月22日（水） 17：00～18：35

場所：東京電力株式会社本店3階記者会見室

対応：細野内閣総理大臣補佐官、西山審議官（原子力安全・保安院）、坪井審議官（文部科学省）、加藤審議官（原子力安全委員会事務局）、松本本部長代理（東京電力株式会社）

* 文中敬称略

○司会

直前となりましたことを深くお詫び申し上げます。それでは、早速ですが説明の方に入らせていただきたいと思います。最初は環境モニタリングの状況についてです。まずは東京電力からの説明となります。

＜環境モニタリングについて＞

○東京電力

東京電力の松本でございます。それでは、発電所の環境モニタリングの状況につきまして御紹介させていただきます。本日は空気、海水、土壌の3点がございまして、まず、1点目は空気中の放射性物質の濃度の分析でございます。資料のタイトルで申し上げますと「福島第一原子力発電所敷地内における空気中の放射性物質の核種分析の結果について」、サブタイトルが第89報となっているものでございます。こちらは発電所の西門、それから第二原子力発電所のモニタリングポストの1番で毎日継続してダストの濃度を測っているものでございます。ページをめくっていただきまして、1枚目の裏面のところに測定値記載させていただきました。空気中の濃度限度に対する割合といたしましては0.00～0.01といった状況でございます。経時変化は2枚目のところに記載がございまして、ページをめくっていただきまして、1枚目の裏面のところから各地点におけます分析結果、それから3枚目の表面の下側から経時変化の方、記載させていただいております。濃度といたしましてはほぼ横ばい、ないしは減少傾向でございます。また、水中の濃度限度を下回っているという状況になっております。3番目は、土壌の分析結果にな

ります。資料のタイトルで申し上げますと、「福島第一原子力発電所構内における土壤中の放射性物質の核種分析の結果について」続報 19 になります。こちらは発電所敷地内の土壤中のプルトニウム、ウラン、そのほかガンマ核種につきましての分析結果になります。ページをめくっていただきまして、1 枚目の裏面が別紙 1 となりますが、土壤中のプルトニウムの分析結果でございます。6 月 6 日に採取したものを日本分析センターさん、それから 6 月 9 日に採取したものを日本原子力研究開発機構さんの方で分析を行ったものでございます。プルトニウム 238、239、240 に関しましてはこの表のとおりでございますが、国内の土壤中で見られる平均的なプルトニウムの濃度とほぼ同等と考えております。2 枚目の表面の方が土壤中のガンマ核種の分析結果になりますが、ヨウ素 131、セシウム 134、セシウム 137 といった主要 3 核種のほか、セシウム 136 ですとか、テルル 129m、ニオブ 95 といったものが観測されております。こちらに関しましては、特にこれまでの測定状況と比べまして大きな変動はございません。2 枚目の裏面になりますけれども、このほかアメリシウム 241、キュリウム 242、243、244 の分析結果になります。こちらは 5 月 2 日に採取したものを日本分析センターさんの方で分析したものになります。こちらのアメリシウム、キュリウムに関しましては天然に存在しない核種でございますので、今回の事故の影響で放出されたものと考えております。東京電力からは以上です。

○司会

次に文部科学省からの説明となります。

○文部科学省

文部科学省の坪井でございます。お手元に「環境モニタリングの結果等について」ということでお配りをしております。まず、全国的な調査ということで都道府県別の環境放射能水準調査の結果、それから、全国の大学の協力によります放射線量の測定、定時降下物、上水等の結果ですが、いずれも大きな変化は見られておりません。また、発電所周辺の空間線量率、それから積算線量計、ダストサンプリングなどにつきましても大きな変化は特段見られておりません。海域についても同様の結果が得られておりますが、いずれにしましてもこれらにつきましては原子力安全委員会の方に評価をいただくことにしているものでございます。あと、48 ページ以降はあくまでも参考ということで見ていただければと思いますが、福島県の方で県内全体の学校の測定を改めてされているというものでございます。75 ページを見ていただきますと、全体の結果の大枠が載っているかと思いますが、対象となる学校が 1752 で、現在までには 1729 の学校まで調査を終えられているということで、校庭使用制限値を超える $3.8\mu\text{Sv}$

毎時以上の学校はありません。1 以上のところが今のところ 372 の学校があるということで、こちらについては基本的に校庭土壌の除去に対しまして国の方が財政的支援を行う予定をしているというところに該当するものでございます。文部科学省は以上でございます。

○司会

続いて、原子力安全委員会からの説明となります。

○原子力安全委員会事務局

原子力安全委員会事務局の加藤です。私からは 6 月 22 日付原子力安全委員会の「環境モニタリング結果の評価について」という 1 枚で表裏にコピーしております紙、それから、こちら参考資料 1 枚目が A4 横長で福島県の地図に線量を落とし込んだものになっていますが、これを用いて説明いたします。

空間放射線量率、それから空気中の放射性物質濃度については大きな動きはございません。4 の環境試料の関係ですけれども、裏にいただきますと新しい試料の結果が出てきております。参考資料の 13、14 ページを御覧いただければと思います。13 ページに表がありまして、調査結果地下水質と書いてございます。これ、何かと申しますと、環境省の方で今回の震災の被災地において有害物質が地下水に入っていないかという水質モニタリングを行っておりますが、福島県につきましては有害物質だけではなくて放射性物質も地下水中に出していないか調べるということで行われているものでございます。まず、最初の 5 地点について 6 月 21 日に環境省から発表があったものでありまして、この 5 地点、場所は更にその裏面 14 ページに地図がついてございますけれども、この 5 ポイントではヨウ素、セシウム、それぞれ不検出であったということでございます。それで、環境省では県と調整を進めまして福島県内約 100 のポイントにおいてこういった調査を行うということでございますので、また、今後追加のポイントがございましたら、このような形で御報告させていただきたいと思っております。5 の全国の放射能水準調査については特段大きな変化がないという状況でございます。私からは以上でございます。

○司会

続きまして、各プラントの状況についての説明です。東京電力からの説明となります。

<プラント状況について>

○東京電力

東京電力でございます。それでは、お手元の資料に従いまして御紹介させていただきます。まず、福島第一原子力発電所の状況ということで A4 縦の 1 枚もの、裏表になっている資料を御覧ください。タイトルが「福島第一原子力発電所の状況」ということになります。まず、タービン建屋の地下のたまり水の処理でございますが、本日午前 10 時に水処理システムを使いまして高濃度の汚染水による通水試験を行っておりましてけれども、一旦停止いたしまして、10 時 20 分からセシウム吸着塔のフラッシングを実施中でございます。こちらに関しましては 2 時間程度フラッシングを行うという予定でございましたが、現在も継続しております。このため、午前中の会見で御報告させていただいた 2 系列目と 4 系列目の先頭の吸着塔の交換についてはまだ未着手でございます。こちらに関しましては、フラッシングを継続している理由といたしましては、まず 1 点目はお手元に「滞留水処理分析シートの結果」ということで 1 枚配らせていただいております。こちらはセシウム吸着塔とアレバの除染装置を通った後の除染の能力を示す分析結果になります。処理前の水が、セシウムで申し上げますとセシウム 134、137 が 10 の 6 乗といった濃度で入ってきておりまして、セシウム吸着塔を通った後が 4.3×10 の 4 乗、若しくは 4.8×10 の 4 乗ということで、こちらに関しまして少し当初予定していた 10 の 3 乗程度という除染係数から見ると 10 の 2 乗程度しか出ていないという点がございます。そのため、アレバの除染水を通ったところは今回 ND となっていますけれども、こちらは少しバックグラウンドの影響できちんと測れていないという状況でございます。ND のレベルが 1.0×10 の 2 乗でございますので、システム全体の除染係数といたしましては 10 の 4 乗というレベルでございます。 1.0×10 の 2 乗というアレバの処理推移後の水でございますので、このままでも R0 膜、塩分除去の装置の方には注入できますが、一旦このセシウム吸着装置のいわゆる除染係数が低い理由について調査を進めているという段階でございます。もう 1 点は、今回試運転を継続しておりますけれども、最終段にもございますヨウ素除去のスキッドの表面線量が上昇傾向であるということが確認されましたので、こちらの原因についての分析を進めるということでございます。したがって、現在はセシウム吸着装置、それからアレバの除染装置に関しまして循環運転を継続しているという状況になります。続きまして、お手元の資料の方に戻りますがトレンチの立坑、各建屋のたまり水の状況につきましては、午前 7 時の段階の資料になっておりますので会見終了時に最新値を御報告したいと思っております。なお、2 号機のタービン建屋のたまり水は本日午前 9 時 56 分からプロセス主建屋の方への移送を行っております。また、3 号機のたまり水に関しましては昨日の 15 時 32 分からプロセス主建屋の移送を継続して実施中ということになります。裏面の方にまいりまして、放射性物質のモニタリングにつきましては先ほ

ど申し上げたとおりです。使用済燃料プールの冷却ですけれども、本日は 4 号機に対しまして 14 時 31 分から代替放水設備によります放水を行っております。総量で 150t の予定になります。それから、圧力容器の注水でございますが、本日、注水量を 1 号機、2 号機とも $0.5\text{m}^3/\text{h}$ ずつ低減をいたしております、その後、各圧力容器の温度を観察中でございます。1 号機の格納容器の窒素ガスの封入でございますけれども、本日 11 時の段階で格納容器の温度といたしましては 135.7kPa 、窒素の封入量といたしましては $50,200\text{m}^3$ ということになります。それから、その他の工事でございますが、そちらに関しましては瓦れきの撤去、飛散防止剤の散布につきましては、会見終了時に最新の実績をお示ししたいと思っております。それから、下から 3 つ目の作業でございます。本日、ご案内させていただいたとおり 2 号機の原子炉建屋 1 階にて原子炉圧力計と水位計の取り付けを行っております。実績といたしましては、本日 11 時 15 分～12 時までの約 45 分でございます。入域した作業員は当社の社員が 4 名、それから協力企業の作業員の方が 7 名、放射線管理員、これは所属は協力企業さんになりますけれども 1 名ということで、トータル 12 名になります。これらの方々の最大の被ばく線量は 4.58mSv 、最小の方は 1.38mSv でございました。必要な写真等、準備いたしておりますので、明日の会見時に配付できると考えております。また、取り付けした仮設圧力計に関しましては現在温度の整定を待っている状況でございますので、測定結果につきましても明日の会見時の御紹介できると考えております。それから、資料の下から 2 番目でございますが、本日 1 号機の燃料プール冷却材浄化系の代替冷却装置の設置に向けた事前調査を 1 号機の原子炉建屋 3 階にて行っております。入域の実績といたしましては 10 時 30 分～11 時 30 分の約 1 時間でございます。人数は当社の社員 3 名と協力企業の作業員の方 5 名という、計 8 名になります。被ばく線量に関しましては当社の社員で最大の者が 2.8mSv でございます。こちらに対しましては 1 時間程度かけまして使用済燃料プールの冷却浄化系がこのまま使用可能なのかというところを判断してきております。そのほか、今回初めて燃料プールの水のサンプリングを行ってまいりましたので、こちらのサンプリング結果につきましても結果が出次第、御紹介させていただきたいと思っております。この資料に関しましては以上です。それから、取水口付近の海水の分析結果になります。資料のタイトルで申し上げますと「福島第一原子力発電所取水口付近で採取した海水中に含まれる放射性物質の核種分析の結果について」、サブタイトルが 6 月 21 日採取分になります。こちらは 2 号機と 3 号機の取水口付近で高濃度の汚染水が漏出したという関係で防波堤の内側の海水を毎日サンプリングして放射能の分析を行っております。分析結果につきましては 1 枚目の裏面から表の中に記載させていただきました。経時変化の方を 3 枚目の表面の方から各地点のグラフ化をさせて

いただいております。ほぼ横ばい、ないしは減少傾向でございますので、高濃度汚染水の追加的な漏出はないと判断いたしております。続きまして、最後に報告書の提出が 1 件ございますので御案内させていただきます。資料のタイトルで申し上げますと「福島第一原子力発電所に滞留している高い放射線量が検出された排水の集中廃棄物処理施設への輸送にかかる報告書の提出」でございます。こちらはこれまでタービン建屋にたまっております高濃度の汚染水をプロセス主建屋に移送しております。その際には 0.P. で申しますと 5, 100mm のところまで移送量といたしましては 14, 200m³ 分移送可能ということで、保安院さんの方に安全確認していただいておりますけれども、今回改めて 0.P. で申し上げますと 5, 600mm+50cm、それから、容量といたしましては 15, 700m³ ということで、追加で 1, 500m³ 移送可能ということで安全確認いたしましたので、保安院さんの方に報告書として提出させていただいたものになります。取水口時、それからプロセス主建屋周辺のサブドレン水位等から考えまして、高濃度の汚染水が環境への漏出はないものと判断いたしております。こちらの追加的に 1, 500m³ 確保できるということと、これまで滞留水の処理を行った結果、これまでの見通しといたしましては 6 月末にタービン建屋の方は満水にあるという御報告をさせていただいておりますが、1, 500m³ の追加とこれまでの水処理の結果から実質的には 5 日間程度の余裕が確保できたと考えております。東京電力からは以上でございます。

○司会

次に原子力安全・保安院からの説明となります。

＜原子力安全・保安院からの説明＞

○原子力安全・保安院

原子力安全・保安院の西山でございます。今、松本さんが最後におっしゃいました件について、原子力安全・保安院の判断いたしましたので報告をいたします。資料は「ニュースリリース経済産業省」と書いてあるもので、タイトルが「東京電力株式会社第一原子力発電所プロセス主建屋への高濃度の放射性物質を含む水の移送における貯水範囲の更なる変更について」というものです。松本さんが説明されましたように、今回東京電力は 2 号機及び 3 号機のタービン建屋の汚染水が増加傾向であること、それから、放射性処理設備の処理が安定運転するに至っていないということ、更なる貯水容量を確保する必要があるということで、プロセス主建屋の地下 1 階の床上 1.9m、0.P. で 5, 600mm までに貯水範囲を変更したいと言ってきました。原子力安全・保安院として漏えい対策、被ばく対策を評価しました。漏えい対策につきましてはプロセス主建

屋の地下1階の床上1.9mのところに位置する貫通部からの漏えいにつきましては、前回1.4mまでに変更する際に既に併せて評価を行い、漏えい対策は十分と判断しております。仮に漏えいが発生した場合でも漏えいの範囲は限定され、かつ建屋外に漏えいする恐れはないと判断しております。被ばく対策につきましては、地下1階の床上1.9mのレベルまで貯水範囲を拡大した場合でも被ばく線量については前回の評価のときに既に行っておりますが、全てこの1階部分が汚染水に満たされているという前提での評価をしておりましたので、今回の場合でも被ばく対策は図れていると評価をしております。2ページ目になりますけれども、仮に漏えいをいたした場合でも、その上での作業については必要な制限をすることによって対応可能であると考えており、以上の判断から東京電力の判断について私どもとして適切であると考えた次第でありまして、それは東京電力にも伝えております。以上でございます。

○司会

これから質疑に入らせていただきたいと思います。毎回でございますが、質問事項につきましてはなるべく冒頭にまとめて簡潔にお願いしたいと思います。また、質問の際には誰に対する質問であるかを明確にさせていただくよう、お願いいたします。それでは、質問のある方は挙手をお願いいたします。では、前から2列目の方。それと後ろの席で、前から2番目に手を挙げている方、お願いいたします。

＜質疑応答＞

○読売新聞 今津

Q：読売新聞の今津です。東京電力の松本さんに御質問させていただきます。先ほど御説明いただきました、プロセス主建屋の容量の引き上げの件なんですけれども、これまで当初0.3,700だったところから段階的に上げてこられているわけですが、まず、先ほど実質的に5日間の余裕ができたとおっしゃったんですが、配付されている資料の2ページのところには3日程度遅らせることができると書かれています。この2日間の違いはどこにあるんでしょうかというのが、まず1点目です。これまで水位の変化について雨量については評価として入れていなかったというご説明だったと思うんですが、ここ数日、雨が上がって1号機の原子炉建屋の水位も若干上昇しているようなんですけれども、1号機の原子炉建屋の地下のたまり水の上昇、それから2号機のタービン建屋の地下のたまり水の上昇について、午前も1度御説明いただきましたが、1番新しい数字でどうなっているかを教えてください。3点目ですけれども、滞留水の処理分析結果シートを配付いただきましたが、セシウムにつ

いては ND、これもよく分からないとおっしゃっているのですが、ちょっとこれもう 1 度詳しく説明いただきたいんですが、当初の目標を達していないというご説明でした。当初は何桁落とす予定だったのが結果的にどの程度になっているのか。確か試験で低濃度でされたときには予想以上にうまくいくというお話だったのですが、なぜうまくいかないのかという御説明をお願いします。以上です。

A：（東電）東京電力でございます。プロセス主建屋の移送可能量を今回 50cm 上げて 1,500m³ 程度余分に確保できるということは、日量で 500m³ 程度注水によります流入があると考えておりますので、単純に割り算いたしまして 3 日程度伸びるということになります。それから、これまで水処理システムの方で 1,000t 強の水が処理できておりますので、この分が合わせて 2 日間程度余裕があると見ております。したがって、合わせて 5 日間程度の余裕があると見ております。当初、水処理システムが全く稼働しないと考えておりました場合には、3 号機が 6 月 29 日に O.P. で 4,000 に達するという予定でしたが、このまま水処理システムが全く動かないということを仮定いたしましても、6 月 29 日から 5 日間程度の余裕が伸びているという状況になります。雨量の関係でございますけれども、ここ数日の状況で申し上げますと、はっきり雨量の影響が現れたのは 1 号機の原子炉建屋の水位でございます。こちらは各建屋の水位をこれまで監視しておりますが、最終的には 1、2 号機の建屋に入ってきた雨水、それから原子炉の注入水は最終的に 2 号機のタービン建屋に集まってまいります。それから、3 号機と 4 号機に入ってくる雨水、それから、注水してきた水は最終的に 3、4 号機のタービン建屋の方に入ってきているという状況でございます。したがって、雨水の影響だと確実に分かりますのが 1 号機の原子炉建屋ということで、こちらは午前中の会見で申し上げたとおり、本日約 47mm の上昇がございました。その後、現在晴れておりますので、この上昇した分が廃棄物処理建屋等を通じて 2 号機のタービン建屋の方に流れていくという状況になります。したがって、まだ 2 号機、3 号機でタービン建屋側で雨水の影響がどれだけあったかというのははっきり分かりませんが、こちらの方が移送を行っておりますので、全体としては減少傾向にございます。なお、こちらに関しましては、5 月 28 日頃台風の接近に伴いまして、大きな雨が降った際の基本的な私どもの認識といたしましては、周辺で 100mm の雨が降った際には 2 号機のタービン建屋として 68mm、3 号機側で 52mm 上昇するというデータが得られておりますので、今後、雨が降った場合にはそういったことを評価に加えていくということになります。現時点では予想している水位の変化のシミュレーション上、大きな差異はな

いという状況になっております。3 番目の分析の結果でございます。お手元の滞留水の処理の分析結果でございますけれども、まず 1 点目は処理前と申し上げますのはたまり水の状況でございますので、 2×10 の 6 乗、あるいはセシウム 137、 2.2×10 の 6 乗でございますが、これはほぼ予想どおりの 10 の 6 乗 Bq/cm^3 といった濃度になります。こちらの方が当初、単独で低濃度の汚染水を使ったときには 10 の 3 乗程度の DF といいますか除染係数が出ておりましたので、今回の結果から見ると 4.8×10 の 4 乗ですから、DF で申しますと 10 の 2 乗程度しか出ていないということで、こちらは何か原因があるのではないかとということで少し調査が必要だと考えています。元々、薄い濃度を更に薄くするのは DF としては非常に困難ですけれども、濃いものを薄くする際にはそれなりにできるだろうと思っていましたので、ここについては少し検討が必要だと思っています。それから、除染処理装置アルバの方でございますが、今回、処理後の水が ND になっていて 10 の 2 乗までしか測れていないという状況になっています。こちらは低濃度の汚染水を測定した際には 10 の -2 乗まで測っておりましたので、少し分析した際のバックグラウンドの影響がどういうものになっているかというのを少し調べて、測定計の方を少し再検討する必要があると思っています。セシウムのガンマ線のピークに非常に近いものがあったりすると正しくはかれなくなりますので、マンガンですとか、そういった核種が悪さをしているということであれば、そういったことをより詳細に調べる必要があると思っています。ただ、処理後の値といたしまして、 1.0×10 の 2 乗 Bq/cm^3 でございますので、以下ということでございますが、この水の性状といたしましてはその先にございます塩分除去、RO 膜の能力といたしましては 10 の 2 乗 Bq 以下ということでございますので、その濃度から見ると処理としてはできているという状況にはなります。ただ、どれぐらい正確に DF が出ているかというところについては再度検討させていただくということになります。

Q：ありがとうございます。確認なんですけれども、今、水処理が終わったのが 1,000t 弱とおっしゃいましたが、これはいつの時点でどのぐらいという。

A：（東電）こちらはまず、昨日の 7 時 10 分に停止するまでに約 750 t 処理が終わっております。それから後、昨日の 12 時半から今朝の 10 時までおよそ 20 時間ほど動かしておりますけれども、これで約 1,000t ほど処理の方は進んでおります。

Q：というと、トータルで 1,750t になりますか。

A：（東電）そのところで合わせて、余裕としては2日程度見た方がいいだろうと考えています。

Q：先ほど1,000t弱とおっしゃったけれども、実際は1,700強。

A：（東電）もう少しあるということにはなりますが、余りそのところで1日余裕があると見てもある意味仕方がないところもございますので、およそ5日は確保できていると判断しています。

Q：この水なのですが、セシウムはNDだからよく分かりませんが、これをこの後脱塩して使われますか、どうされますか。

A：（東電）この水に関しましてはまだ塩素の濃度等の測定がまだ終わっておりませんので、そういった数字をよく確認してから再使用することを考えたいと思っています。

Q：当面は置いておいてということですか。

A：（東電）そうです。

Q：済みません、もう1点だけお願いします。今回のプロセス主建屋の引き上げによって、地下の水位との見合いなのですが90cm以上というのはキープをされるのでしょうか。それと、この間ずっと引き上げてきましたけれども、地下水位は結構上下動すると思うんですが、この間の地下水位の実績値があれば。つまり5月15日、6月4日、8日ですね。それと今の、もし分かれば地下水位を教えてください。

A：（東電）こちらに関しましては地下水位の変動を加味しても、地下水位を上回らないということで90cmの余裕を見ています。現在、最新値はちょっと把握できておりませんが、6月19日のサブドレンの水位といたしましてはO.P.で6,600mmでございますので、5,600mmから考えると1mのプラス水位の方が高いという状況になっています。

Q：分かりました。

○司会

では後ろ、2 列目の方。

○NHK 岡田

Q : NHK の岡田といいます。松本さんにお伺いしたいんですが、今のお話にもあったんですが、滞留水の処理分析結果シートの中にある、10 の 4 乗になっているセシウムの 2 つの値なんですけど、これは確認なんですけれども、水とシリカこういった形で使っているものなのかというのを改めて確認したいと思っているのが 1 点。もう 1 つは、2 号機の作業のことについて、今日できたことでこの時点で分かっていることがあれば教えていただきたいということ。あと、ちょっと細かいんですがコの字型の遮蔽壁を設けるということだったんですが、こういった素材でこういったものになっているのか、大きさ等分かれば教えてください。あと、同じく 2 号機で明日予定されていた 2 階の作業というのは線量が少し高くて改めてこういったことをするかを検討するという話が午前中の保安院の会見の中であったんですけれども、明日予定している作業をもし今の段階で分かっていたら今 1 度教えていただきたいということ。あと、窒素封入とか、そういった作業の見通しを教えてください。

A : (東電) セシウム吸着装置に関しましては 4 つ吸着塔がございますが、2 つが水、2 つがシリカサンドというものが詰まっております。その合流点での分析結果ということになります。それから本日の 2 号機原子炉建屋 1 階の作業でございますけれども、こちらは当初予定しておりました仮設圧力計の設置の方が終わっております。温度の整定が終わりましたら、1 号機と同様、実際の原子炉水位がどういう状況にあるのかというところが判明すると思っています。こちらは本日計画していた作業については予定どおり終わっています。それから、コの字型の遮蔽でございますけれども、こちらの方は少し、写真の方はこれから準備させていただこうと思いますが、基本的にはコの字型にフレームを作りまして、そこに鉛毛マットをぶら下げてカーテンのようにしたような状況でございます。そのコの字型の中に入りまして、仮設圧力計の取り付けをおこなったという状況でございます。サイズ等につきましては、ちょっと確認いたします。それから、原子炉建屋の 2 階でございますけれども、こちらは格納容器の圧力計がございますので、そちらの方の校正が明日予定しております。線量が今回お示しさせていただいたとおり、少し予定箇所が 38.1mSv/h ですとか、ラック前の床のところで 79.1mSv/h でございますので、こういった遮蔽をどうするかということを検討した上で実施になりますので、こちらは明日の予定ではございますが、時間的にはまだはっきりし

ておりません。それから、窒素の封入でございますけれども、こちらはタービン建屋の 1 階のところまではホースの引き回しが終わっておりますので、予定といたしましては明日、窒素封入装置から窒素のラインの接続といったことを行う予定でございます。

○司会

ほかに御質問のある方。前列の後ろの席の方。後ろの席の 1 番後ろの真ん中にある女性の方、続けてお願いします。

○共同通信 須江

Q：共同通信の須江と申します。保安院の西山さんにお伺いしたいんですけれども、発表からちょっとずれるんですけれども、今日は再処理施設へのシビアアクシデント対策について事業者から報告書が出てきたと思うんですが、今後はほかの原発施設と同様に立ち入りの調査などを行う予定なのか、あとは保安院として評価、例えば週内にもとか、今月内にもどれぐらいのめどで行う予定なのか、お聞かせ願えればと思います。

A：（保安院）ちょっと私、スケジュールを確認してまいりませんでしたけれども、これまでの例によれば立入検査を行うとともに、それからなるべく早く結果をまとめるということになりますので 1 週間以内よりはもっと早いかもしれません、結論を出すというのが通常でありますけれども、ちょっと今日の確認をしてまいりませんでしたので確認をしておきます。

Q：立入検査は行うということでしょうか。

A：（保安院）それも分かりません。行っているかもしれないので、ちょっとその確認をしてまいりませんでしたので。

Q：確認をお願いできますでしょうか。

A：（保安院）分かりました。

○司会

後ろの女性の方、お願いします。

○フリー 伊藤

Q：フリーの伊藤と申します。文科省にお願いします。SPEEDI についてお尋ねします。放射線影響研究所の 2010 年の論文によると、積年において受けた積算線量が大きいほど病気になりやすいということだそうです。それで、今回の IAEA の閣僚リポートにも書いてあるように、SPEEDI の公開をなされるべきであるという要望なんです、それについて今後どうなりますでしょうか。

A：（文科省）SPEEDI につきましては本来の使い方は確定した、確度の高い放出源情報を得て、放出されたものがどう拡散していくかという使い方が本来の使い方なんです、今回の震災の場合はそういう使い方ができなかったということで、実際に行われていたのは 1Bq が 1 時間出るといような単位放出を 1 時間ごとに動かすというやり方ですとか、仮定の条件、仮想事故が起こったとか重大事故が起こったとかいう条件で使われていましたが、やはり確度は高くないということで行われた当時には発表されなかったということでございます。その後、いろいろな経緯がございましたが、細野補佐官の強い御指示によりまして、今では過去に行った全ての SPEEDI の結果が公開されております。また、現在の単位時間の値、今も動かしているんですが、その結果も毎日最新のものが公開をされているということでございます。

Q：それはネットでリアルタイムで見られるものなんですか。

A：（文科省）現在のものは 1 時間ごとに動かしたデータをまとめて PDF 化してから出しているの、1 日ぐらいのタイムラグがあるかもしれません。

Q：国民はパニックにならないようにということで情報を精査されていると思うんですけども、阪神大震災と今回の東日本大震災を見ていると、恐らく日本人はパニックにならないと思うので今後の予防というか、特に放射能を受けてくる地域の人たちにとっては今後どういうふう生きていくのかというのはすごく大事なことだと思うので、できればリアルタイムで公表をお願いしたいと思います。それで SPEEDI にも幾つかの世代というか種類があるようなので、できれば立体的なアニメーションの SPEEDI-MP を適用していただければ、本当に国民の多くの願いなのではないかなということでお伝えします。ありがとうございます。

○司会

御質問のある方。この席の後ろの方。それと、後ろの席の 1 番前の方、お願いします。

○朝日新聞 杉本

Q：朝日新聞の杉本と申します。まず、原子力安全委員会の加藤さんにお伺いたします。福島だけではなくて関東の方でも雨どいや側溝など、局所的に放射線量が高い部分があるという話題が特に出ていると思うんですけれども、これについてどれほど気にする必要があるのか。対策をとるべきなら、どういうふうにすればいいのかということがもしあれば教えてください。併せて、個人の方が測定器を買って身近なところを測るということもされていらっしゃる、動きが広がっているようなんですが、これはどれぐらい気にするべきなのかということと、何かもし、逆にある程度意味があるとすれば測り方などのアドバイスがあれば教えてください。保安院の方に次いでお伺いたします。古い話で済みませんが6月3日に発災直後、3月11～15日の緊急時のモニタリングについて一部非公表があったと記者発表されたものです。この際に結局はデータはずっと手元にあったけれども非公表であったということをお伺いしたいんですが、当時確認中ということではなぜ非公表にしていたのか。このデータの公表・非公表を判断するのはどなただったのかということをお伺いできますでしょうか。次いで東京電力の方にお伺いたします。以前に質問をした件なんですけれども、ホワイトボードに3月11日の午後9時51分に1号機原子炉建屋に入室禁止ということと高い放射線量ということを書かれていたと思うんですが、この事実確認というのは既に終了しているかどうかを教えてください。よろしくお願いします。

A：（原安委）安全委員会ですけれども、今回の事故発生以来のモニタリングの状況を見ていますと、全国の放射能水準調査の中で放射性降下物の調査というのも行っておりましたが、これを見ていますと3月20日前後などは関東などでも放射性降下物が数字として出てきていたわけでありまして、そういった経緯からしますと関東などでも若干放射線レベルが高くなっているところがあるということ自体は不思議ではないことかと思えます。ただ、レベルとしてはそれほど心配いただくようなレベルではないと考えております。今回、非常に多くの方が線量計を入手されて、個人でいろいろ測っておられて、またその結果なんかをウェブにアップされている状況はよく承知しておりますけれども、そうやって身近な環境で放射線を測れる。普通は地表から1mの位置で測っていただくのが1番標準なわけですが、それだけではなくてどういったところが高いんだらうかと、質問の中でもありましたけれども、雨どいから水が流れ出るところは屋根についていたものが出てきますから、そういう意味ではそういうところは高くなるんですね。そういったことがあります

ので、どういったところが高いのか、また、そういったところについてはそういったところの土なんかをとり除くとかすればまた線量が下がるということもあるわけです。標準的には 1m の高さではかった上で、いろいろな状況を更によく知っていただくと。その上で必要な対応なり何なりとっていただくということが、そういうふうなそういった情報使っていただくのがいいんじゃないかと考えています。

Q：ありがとうございます。先に確認だけさせてください。例えば、雨どいの下であれば土を交換する、芝生であれば芝生を抜いてしまう。側溝であれば水で洗い流す。こういった対策についてもある程度心配ならされるべきだというお考えなのでしょうか。

A：（原安委）それはしていただいた方がいいと思います。

Q：ありがとうございます。

A：（保安院）原子力安全・保安院でございます。先ほどの御質問については、6月3日に公表しました発災直後のモニタリングデータですが、これは発災直後、オフサイトセンターなどにあったものを持ち出したものもあって、まだ残っていたものもあったという状態で、そこにそういうデータがあるということは原子力安全・保安院の者も認識しておりましたけれども、それをまとめて公表しようということについて日々の新しいデータの収集、それから整理、提供ということに追われたということと、過去のデータについて振り返るという機運がある程度時間が経たないうちはなかったという、恐らくそういった原因によって発表が遅れてしまったということで、大変これについては申し訳なく、深く反省しているところであります。それで、どうしてそうなってしまったかということ、本来発表すべきプロセスとしては保安院の担当者がとりまとめ、それを保安院の院内で認めて組織としての、これを出そうという決定をした上で発表すべきだと思っております。それから、先ほどの御質問で私の方からお答えできなかったことで、再処理に関するシビアアクシデント対策の報告が日本原燃と日本原子力研究開発機構、JAEA から本日の13時30分に保安院に対して提出がありました。立入検査は両者とも明日23日に行われます。各保安検査官事務所などを中心に実施する予定でございます。その結果については来週のなるべく早い地点を目途に評価をまとめたいと思っておりますが、まだ日にちは決まっております。

A：（東電）東京電力でございますが、3月11日の21時51分頃に原子炉建屋の線量上昇により原子炉建屋の入室を禁止する措置を講じておりますけれども、こちらに関しましては具体的に何をどう測ってきて禁止にしたかという記録は残っておりません。なお、ほぼ同時刻でございますが、22時頃に原子炉建屋の現場でポケット線量計の方がごく短時間に0.8mSvとなったことが報告されておりますので、建屋の空間線量が上がっていたと考えています。また、以前お示した1、2号機の中央制御室のホワイトボードには、測定場所是不明でございますけれども、こちらにも1,000cpsといった記載がございます。こういった何か使える線量計を使いまして測定した際に、原子炉建屋では既に線量が高い状態だということを判断して、51分頃原子炉建屋の入域禁止という措置を講じたのではないかと考えています。

Q：では、併せて教えてください。当時、線量が高いということは既に分かっていたということは、こういった状態が想定されるのでしょうか。

A：（東電）当時といたしましてはまだ原子炉の損傷、あるいは何か配管から漏れいがあるということは想像の域を脱していないと考えています。ただ、線量が具体的に上昇してきていることが判明いたしておりますので、放射線の漏出がある、どこから漏れいがあるということに対応するということになります。

Q：専門家の方の意見も、例えばこの線量が増しているということは何か燃料の損傷を想定するものではないということなのでしょうか。

A：（東電）当時といたしましては、燃料の損傷か、あるいは放射性物質を含む高濃度の汚染水や蒸気といったものが建屋側に漏出してきているという状態だったと判断いたしておりますが、まだこの時点で燃料の損傷に至っているかというのはまだ判断しかねているのではないかと思います。現実問題といたしましては、後に解析を行った際には、この時点では既に1号機の炉心の損傷が始まっております。また、当時原子炉の注水に全力を尽くしていたわけでございますけれども、注水ができなくて空だきになるという状態が続けば燃料損傷が発生するということは十分認識していたと考えています。

Q：当時、何かこれに対して対策をとっていたという確認は取れていますでしょうか。

A：（東電）こちらに関しましては、プラントの操作といたしましては 6 月 18 日にプラントの対応状況をお示しさせていただいたとおり、一刻でも早く原子炉への注水をするべく代替冷却の手段を講じていたという状況でございますし、被ばくという観点では建屋の入室禁止といったことを講じています。

Q：分かりました、ありがとうございます。

○司会

続けてお願いします。

○フジテレビ 生野

Q：フジテレビの生野と申しますが、東電の松本さんをお願いします。汚染水の処理システムで吸着塔の機能が想定より出ていないということなのですが、原因として具体的に何が考えられるのかということ。水とシリカを合わせていますが、この結果を見てどうすべきだということが言えるのか。あと、調査にはどれぐらいかかるんですか。

A：（東電）原因につきましては、どこかきちんと水が通っていないという可能性があるかと思いますが、いずれにいたしましてもまだはっきりしたことは分かっておりません。水かシリカ、どちらかを使うということに関しましては、全体の処理性能というよりも、処理性能はもちろん関係いたしますが、水とシリカを通った直後にございます、いわゆるセシウム吸着塔の第 1 段目のところの線量の上昇の具合というところをよく観察する必要があると思っています。なお、この原因調査につきましては今晚、1 日程度で完了すると思っています。

Q：今、循環運転をされているということは、汚染水自体の処理は済んでいるということですね。

A：（東電）汚染水処理は行っておりません。サプレッションプールサージタンクの循環運転ということになります。

Q：ちなみに今回のトラブルで本格運転数日中ということに影響はあるんですか。

A：（東電）当然、今、処理性能といたしまして、当初低濃度の更に 10 の 3 乗

出ているところが10の2乗程度しか出ていないということでございますので、原因について分析する必要があるかと思っておりますが、最終的には処理の後で10の2乗以下であれば全体としては動かさめますので、そういったことから本格運転をこういった形で進めるかについては検討が必要だと思っております。

Q：期間は影響ないということですか。3日程度で始められるということがありましたか。

A：（東電）こちらは当初、水かシリカサンドのどちらかを使うかについて2～3日運転してみて評価をしたいと申し上げておりましたけれども、こういったところ、今日これまで取られたデータ等を踏まえて検討していきたいと思っています。今の段階で3日後と確約できるような状態ではございません。

Q：あと、アレバの方なのですが、バックグラウンドというのは具体的に何が言えるのですか。

A：（東電）言えるといいますか、当初、10の-2乗 Bq/cm³まで測定できていたものでございますが、そのほか、今回で言いますとほかの放射性物質がセシウムエネルギーのピークと近いものがあつたためにうまく測れていないという可能性はあります。こちらはちょっとどこで測定したかは分かりませんが、そういったどんな核種がほかにあるのかというのを調べた上で詳細に評価する必要があると思っております。

Q：別件で、昨日から引き続き暑いんですが、今日は熱中症とかで体調を崩された作業員とかいらっしやらなかったんですか。

A：（東電）今までのところございません。当然、今日みたいな日は30℃を超えるというような天気予報もございましたので、事前のクールベットの着用等については元請企業さんを通じてきちんと周知させていただいております。

Q：クールベットの2,500着用意というのはまだ完了はしていないんですね。

A：（東電）月末までに2,500着でございましたけれども、現在既に配付しているものは着けていただいているという状況になります。

○司会

御質問のある方。前から 2 列目の方、ほかには後ろの席の真ん中辺りの方、続けてお願いします。

○東京新聞 佐藤

Q：東京新聞の佐藤といいます。よろしくお願いします。まず、第 1 点目、滞留水の分析なんですけれども、やられている場所は福島第一なんですか。少々バックグラウンドの影響でそこでは測りにくいという話だったと思うんですが。

A：（東電）ちょっと今、確認します。

Q：あと、キュリオンの装置に関してなんですが、いまだにフラッシングを続けているということなんですが、フラッシングをするとシステム全体の処理が止まるという理解でよろしいのか。いまだにフラッシングをしている理由というのは、分析で想定された結果が得られなかったから、ちょっと様子を見るために汚染水を流さずにフラッシングをしているということなんですか。

A：（東電）フラッシングをいたしますと、いわゆる使用する水が高濃度の汚染水ではなくて、サプレッションプールサージタンクにたまっております低濃度の汚染水になりますので処理そのものは止まっています。それからフラッシングを続けている理由でございますが、こちらはなるべく機器としては止めておくよりも動かしていた方が機器の確認もできますので単純に続けています。そのほか、今回なぜセシウムのいわゆる除染係数が出てこないのかというところも動かしながらの調査ということになります。

Q：最後に 1 点、昨日の 12 時半から今日の 10 時過ぎまで 20 時間ほどやったという通水試験はキュリオンだけではなくてシステム全体ということでしょうか。

A：（東電）アレバの除染装置込みの試験になります。油の分離装置とも含めての試験でございます。

○司会

後ろの方。

○フリー 木野

Q：フリーの木野と申します。今の除染装置の関係で、まず、核種分析の滞留水の分析はどこの水で分析したのでしょうか。今、セシウムの方の係数が出ていないということなんですが、これは昨日のお話だとバックグラウンドの高いところでおおよそ概算ということでしたが、10 の 5 乗ぐらいでというお話だったんですが、するとアレバの方もバックグラウンド高いところで測っているということは、これはNDになっていますけれども、実際はもうちょっと係数が出ていないと思えるんですが、その辺はいかがでしょうか。お願いします。

A：（東電）まず、入り口に関しましては高濃度の汚染水の採取場所で書いてございますとおり、集中廃棄物処理建屋 3 階のサンプリングラインでございますので、こちらは油分離装置の入り口ということになります。プロセス主建屋にたまっている水が 3 階に吸い上げますので、そこでの分析水ということになります。それから、この ND でございますが、 1.0×10 の 2 乗 Bq/cm³ より小さい範囲がはかれないということでございますので、少なくとも 1.0 か 10 の 2 乗と最大と見積もっても、アレバの吸着装置の場合は 2 桁落としているという状況になっておりますが、それ以下は測れていないということになります。

Q：昨日のお話だと、セシウムの方だけで 10 の 5 乗係数落ちているんじゃないかということですが、これは実際に見るとセシウムの方で 10 の 2 乗しか落ちていないんですけれども、そうするとアレバの方も実際はきちんと測るとこれだけ出ているのかなと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

A：（東電）そういったところをきちんと下 2 桁まで測れるようなバックグラウンド、あるいは検出器を用意してきちんと測ることが必要になると考えています。

Q：現状はまだ確実に 10 の 2 乗以下になっているということ判断できないので、R0 膜の方には通していないという。

A：（東電）アレバに通した後に 10 の 2 乗以下になっているんですが、そこから下の桁が測れていないので、今は 1.0×10 の 2 乗だということで DF の方を計算すると 10 の 4 乗程度ということになります。

Q：今は、水の行き先というのはR0膜まで通しているのでしょうか。

A：（東電）通したというか、DF そのものを測っているのは除染水を通した後のところのDFになります。

Q：その後の汚染水を処理した水の行き先なのですが。

A：（東電）ちょっと確認させてください。

Q：分かりました。あと、核種の分析なんですけれども、プロセス主建屋の水なんですけど6月2日の発表だとヨウ素が大体10の7乗ぐらい、セシウムが3.1の10の5乗ぐらい、現状の今回お渡しいただいたものに比べると随分高いんですけれども、この違いは何でしょうか。

A：（東電）ヨウ素が10の7乗。

Q：1.3かける10の7乗。プロセス主建屋の核種分析、放射能濃度になっているんですが、滞留水の保管処理に関する計画について、多分、保安院の方に出したものだと思うんですけれども。

A：（東電）ヨウ素に関しましては、元々減衰しておりますので、こんなに薄いということはないかもしれませんが、こちらに関しましては順調に半減期に乗りまして、低下しているのではないかと思います。分析をする場所、あるいは、プロセス主建屋の水そのものが全体として一様ではございませんので、測る都度、多少のばらつきはございます。

Q：そうすると、実際にはR0膜に通せるほど下がるかどうか未確認になる、評価が難しいと思うんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

A：（東電）R0膜としての能力は10の2乗でございますので、現在の処理後、処理（2）5の値ですと、少なくとも 10^2 以下であるということが分かっておりますので、R0膜への流入は可能だと思います。

Q：現在は、 6.9×10^3 から、 8.9×10^2 に落ちているのは分るんですけれども、以前の分析結果だと 1.3×10^7 のヨウ素131があるので、そうすると、その辺は

どうなのかと思うんですが。

A：（東電）確認いたしますけれども、これまで私どもが見ているヨウ素 131 は、今回のケースで行きますと、 6.9×10^3 ですし、以前お示したようなものですと、もう少し低いレベルの状況ではございますが、現在、タービン建屋、プロセス主建屋に入っている水はこのレベルではないかと思っております。

Q：そうすると、この 5 月 31 日現在で資料が出ていたときの、プロセス主建屋で 10 の 7 乗、それから 2 号機も同じく地下水でヨウ素 131 が 10 の 7 乗、セシウムが 10 の 6 乗レベルなんですけど、もし確認できれば、その辺の違いというのをお願いできますでしょうか。

A：（東電）セシウムに関しましては、ほぼ濃度としては 10 の 6 乗レベルでございますので、基本的には問題ないと思っています。5 月 31 日現在と書いているその資料でございますけれども、これは 5 月 31 日現在にまとめた資料ではございますが、ヨウ素 131 で 1.3×10 の 76 乗 Bq/cm³ というのは、その資料の中の添付 1 のところに内訳がございますけれども、3 月 27 日に測定したものでございますので、半減期としては相当経っておりますので減少しているのではないかと思います。少し、期間と量についてはおよその計算をしてみたいと思っています。

Q：それでも、原子炉の中に注水したものが外にそのまま出ているということを見ると、それほど簡単に半減期が短いといって下がるとは思えないんですがその辺はどうなんでしょう。

A：（東電）80 日経ちますと、1,000 分の 1 程度になりますので、そういう意味では 3 桁下がるのはあり得るかなと思っています。

Q：それは、注水を続けて、後から出てきてもそれぐらい下がるということ。

A：（東電）ええ。核分裂が継続して、ヨウ素が生成されているわけではなく、原子炉そのものはもう止まっていて、新たなヨウ素 131 は生成されておられませんので、原子炉は止まった後、ヨウ素 131 に関しましては、数量が半減期に従って減っていく状況になります。

Q：そうすると、ちょっと話はそれるんですが、海水の分析では。それほど、3

桁も 4 桁も下がっていないんですけれども、その違いはどう見たらいいんでしょうか。

A : (東電) 海水といいますと。

Q : 海水の核種分析だと、ヨウ素はそこまでの低下が見られないんですが。特に、海水は後から追加のものが出ているという判断を東京電力さんがされているので。

A : (東電) はい、そうです。

Q : もし、今のお話であれば、海水もヨウ素がもっと下がってもいいのではないかなと思うんですが、現実にはセシウムと同じ程度しか下がっていないですし、その辺の違いはあるんでしょうか。

A : (東電) 海水の方も日々の上下がございますけれども、およその直線近似をやってみますと半減期に従って下がっているように見えます。そちらの方に關しましては、逆に、セシウムが完全に滞留しているとすれば、もっと並行になるはずなんですけれども、拡散等の影響があつて、逆に揺らいでいる状況ではないかと思っています。

Q : これを最後にしますが、そうすると、現在 1 号機から 4 号機までの水に關しては、ヨウ素はおおよそ 10 の 3 乗レベルになっていると評価されているということでしょうか。

A : (東電) 正式には、10 の 7 乗 Bq/cm³ の状況からおおよそ半減期を引っ張ってみて、どれぐらいの量になるのかというのは評価する必要がありますけれども、8 日間でございますので、80 日経過いたしますと、おおよそ 1,000 分の 1 ということにはなります。

Q : ありがとうございます。

○司会

御質問のある方。では、前の席の 1 番後ろの方と、それから、後ろ側の左側の前から 2 番目の方、お願いします。

○共同通信 服部

Q：共同通信の服部です。松本さんをお願いします。2号機の計器の取り付け作業なんですけれども、測定結果は明日ということでしたが、明日の何時頃そのデータはいただけるのでしょうか。取り付けてすぐには数値が出ないというのは、どんな作業がこの後必要になってくるからなのでしょうか。あと、午前中に配っていただいた資料にモニターの設置というのがありましたけれども、この設置はもう済んでいるのでしょうか。

A：（東電）はい。こちらは時間が掛かっておりますのは、注水した水が温度として周りの雰囲気と整定するまでに時間を要しておりますので、そういった面で、すぐに測定したばかりですと、常温の水が注入されています。したがって、周りの環境、特に原子炉側は温かい状態になっておりますので、そこそろう状況まで待つ必要がございます。それを待ちますので、早ければ明日の午前中の会見のときには実際の水位が御提供できると思っています。それから、モニターの設置でございますが、仮設の計器を今回取り付けましたので、それを遠隔で見るための監視カメラを設置するということになります。

Q：そのカメラはもう設置済みということでよろしいですか。

A：（東電）はい、そうです。

Q：あとは、12名で中に入られて、最大で4.58 mSvだったということですが、計画線量は幾つだったのでしょうか。

A：（東電）少々、お待ちいただけますか。2号機の圧力計の設置に関しましては、計画線量は3mSvでございます。

Q：計画線量超えの方が少なくとも何人かいらした。何人いたか分かりますか。

A：（東電）分かりません。最大が4.58 mSvでございますので、確認させていただきます。

Q：お願いします。ありがとうございます。

○司会

では、お願いします。

○NHK 花田

Q: NHKの花田と申します。東京電力の松本さんに大きく3点伺わせてください。

1点目なんですけれども、水の処理システムの関係で、今日、出ているキュリオンの方の除染の 10^2 程度というお話なんですけど、先ほど、この効果が落ちた理由として、水が通っていない可能性があるとおっしゃられたと思うんですけれども、具体的に、こういったことを指しているのかということと、あと、水とか、あるいはシリカサンドに入れ替えてやっていると思うんですけれども、そういったことでこの吸着、除染の落ちている可能性とか、見立てはどのようなになっているのかを1点目、伺わせてください。次なんですけれども、今、汚染水処理をして1,700 t強、もう既に仮設タンクにたまっている水があると思うんですけれども、循環注水冷却の予定とか計画を今のところどのように見ているかを教えてください。配管のリークチェックなどもやるとおっしゃっていた話があったと思うんですけれども、それがどうなっているのかも教えてください。あと、プロセス主建屋への追加輸送の関係で、OP6,600まで、90 cmにしたというお話がありましたけれども、これは14日のときには、合計6,000だったのではないかという記憶がありまして、600上がったのはどのような要因になるのかを教えてください。

A: (東電) セシウム吸着塔の除染係数が10の2乗程度に収まっているということに関しましては、初段のところの影響なのか、あるいは、セシウム吸着塔そのものに多少、うまく流れてない箇所があるのかについて少し調べる必要があると思っています。それから、1,700 tの水でございますけれども、まだ今のところ、具体的に循環注水冷却としていつ使用するかについては未定でございます。プロセス主建屋のサブドレンの水位は最新値が本日22日の7時現在でも6,600 ミリでございますが、こちらは、サブドレンで自動的に排水しておりませんので、雨水がたまりますと、水位が上がってまいります。

Q: ありがとうございます。

○司会

御質問のある方はあとどれぐらいいらっしゃいますでしょうか。ちょっと今、補佐官は席を外しておりますので、補佐官に対する質問はまた後にさせていただきたいと思います。それ以外に何人ぐらいいらっしゃいますか。お2人ですか。では、まずそのお2人をお願いします。こちら側の右側の方から。そ

の後、左側の方、お願いします。

○週刊金曜日 片岡

Q：週刊金曜日の片岡です。作業員の数を教えてください。以前もお伺いしました、東電の社員、協力会社の社員、協力会社の下請けの社員。最後の下請けの孫請け、3次請け、4次請け、5次請けか不明ですがその数は以前は教えていただけませんでした。その数もお願いします。そして、その作業員がどの作業内容にどのくらい配置されているかという割合なども主なところかだけで結構です。教えていただければ。あと、先ほどの、計画を超える線量があったということですが、現場の作業員全てにホールボディーカウンターできちんとチェックをして欲しいという思いがあるということを知っています。改めて、ホールボディーカウンターでの検査チェック体制をどのような拡充の方法を取っておられるのかお伺いします。以上です。

A：（東電）作業員の人数でございますけれども、昨日の12時の時点で、福島第一の仕事をしている者として2,519人になります。社員が322人、協力企業の作業員の方が2,197人という内訳でございます。それから、この2,519人の中では、福島第一の発電所の中ではなく、第二のバックオフィスのところで福島第一の復旧作業に働いている方も含めての人数になります。それから、元請けで、1次、2次、3次、4次別、それからどの作業にどれだけの人数がいるかについては、確認する必要があります。今のところ、私どものところにはデータがございません。先ほど、2号機の原子炉建屋の作業で計画線量の3mSvに対しまして4.58の方がいらっしゃいますけれども、こちらに関しましては、計画線量との差異を分析して、適切に作業計画等の見直しを行っていきたいと考えています。それから、ホールボディーカウンターにつきましては、10月までに約10台を増設するという事で進めております。事故発生時の3月に作業された方で、まだ69名の方が受検の計画がございませんので、引き続き、連絡を取って受検を勧めていきたいと思っています。また、現時点では、バーコードリーダーを利用いたしまして、本人とAPDの1対1の使用ができるような状況になっておりますので、それらを利用して、引き続きホールボディーカウンターの受検を計画的に進めてまいります。

Q：元請け、あるいは2次、3次、その人数。そして、協力会社の数などは公開しないのでしょうか。そして、元請けの人数、作業内容の配置は、後日、調べてお答えいただけるということでしょうか。

A：（東電）公開はこれまでもいたしておりませんが、少し、こういったことで公開できるかについては検討したいと思っています。また、配置、人数に関しましては相当時間が掛かりますので、少し、お時間をいただければと思いますが、その時点ではデータとしては古くなっている可能性があります。

Q：東京電力は、この 2,529 人の全体の数を把握しておられて、更に協力会社の数、その下の元請けの数、これは全て東電本社の方で管理されているということでしょうか。

A：（東電）入ってきている人数に関しましては、入ってきているゲートのところで確認ができますので、人数としては把握しています。それから、どの企業さんに何人いるかにつきましては、基本的には私どもが直接その人数を管理しているわけではございません。元請けの企業さんが自分の作業に関しましての人数、業務管理を行っております。

Q：では、元請けに確認した後で、それも把握できるということでしょうか。

A：（東電）そういうことになります。

Q：是非、確認、そして公開をよろしくお願いします。以上です。

○司会

では、前の男性の方。

○フリー 木野

Q：度々済みません、フリーの木野です。まず、東京電力の松本さんに。汚染水の処理なんですけれども、今日、発表いただいた写真を見ると、真っ茶色の、何かすごい水になっているんですが、これは、基本的には汚染水、セシウムを抜く前の油分離のところで錆、それから諸々いろいろなもの、魚等もいるみたいなんです、というのは全部取れることになるのでしょうか。そうすると、その部分に取れているものに付いている放射性物質の関係で線量が上がると思うんですけれども、その辺はどういった線量になって、どういう状況になるのでしょうか。お願いいたします。それから、保安院、安全委員会それぞれに、先ほど、汚染水の滞留水の核種分析の結果に関してなんです、かなり、3月からこれまで評価をしていないので、現状がこういった形

になっているのかというのが見えにくい部分があるんですけども、核分裂をしていないで、半減期で少なくなっていくということは、このまま水をどんどん入れていくと、基本的には薄まる方向になるのかとも思えるんですが、今回の5月31日に発表されている滞留水の濃度と、今回、滞留水の分析の結果出てきたものを比較して、どういうことが言えるのかというのを、保安院と安全委員会でそれぞれの評価をお願いできますか。よろしくお願いします。

A：（東電）まず、東京電力からでございます。油分離装置は基本的に水に浮くものを処理してまいりますので、油ですとか、グリースといったものを分離していくことになります。錆類に関しましては、セシウム吸着塔、若しくはアレバの除染装置の中で処理されますし、最終的にはRO膜を通過できませんので、そこで堆積することになります。

Q：セシウム吸着塔と、アレバの除染装置は、そういった錆であるとか、ほかの諸々金属がいろいろなものがあると思うんですが、これは取りあえず入っていても大丈夫な状態なんではないでしょうか。

A：（東電）そうです。いわゆるゼオライトは軽石のようなものでございますので、その隙間を通れないものはそこに付いていくということになりますし、アレバの処理装置でございますと、イオン性のもので、薬剤と反応するものは沈殿することになります。

Q：そうすると、特にセシウム吸着塔の方は、流していくと、要するに、実際に錆であるとかが詰まっていくと、流量がだんだん少なくなっていくように思うんですが、それを見ながら交換という感じになるんでしょうか。

A：（東電）流量の減少は確認できますけれども、基本的にはセシウム吸着塔は、表面の線量がどれくらい上がったかで交換することになります。

Q：分かりました。

A：（保安院）原子力安全・保安院です。汚染水の核種分析の結果について、この時点で言えることとしては、やはり、3月のデータと今日のデータを比べることですから、ヨウ素について半減期を考えますと、ほぼ同じ性質の水であると考えられると思います。

A：（原安委）安全委員会です。安全委員会としては、滞留水については、ヨウ素、セシウムだけではなく、ほかの核種がどれぐらい入っているかということがやはり重要ではないかと思います。といいますのは、今は出てませんけれども、4月、5月にこういったものが海に出たわけでありまして、海洋のモニタリングを、今、ヨウ素とセシウムを中心に着目してやっていますけれども、ほかの核種について調べる必要がないのかどうかについて、それは、重要な指標になると思いますので、ほかの核種のデータが非常に重要であると思っています。

Q：ありがとうございます。

○司会
前の方。

○グルームバーグニュース 稲島

Q：グルームバーグニュースの稲島と申します。東京電力の松本さんと保安院の西山さんにそれぞれ何点かあるんですけれども、まず、第1点目が、今日、東京電力さんの方で債権の償還を迎えたものを払われたと、朝方に広報の方にお伺いしたんですけれども、先日、銀行さんから2兆円の緊急融資を受けられて、手元にそのほかにもいろいろキャッシュの部分があると思うんですけれども、賠償の部分で、例えば避難されている方とかに余り積極的に払われていない一方で、こういった、市場への影響等を考えていたと思うんですけれども、社債等については積極的に払われているという、この辺については避難されている方等の賠償の部分で憤り等もあるんじゃないかと思うんですけれども、この辺について改めて御社のスタンスという部分を教えてください。それと、先日の、IAEAのリポートで、80ページのところに日本で今回、津波警報システムがあるにも関わらず、余りそれがうまく有効利用されなかったというような記述があるんですけれども、それを受けて、東電さんとして、地震の後に津波が来るというのを把握されたのは、本店及び現場ではいつ頃だったのか。例えば、現場において津波の警報システムですとか、極端な話、テレビを付ければNHKさんでもやっていると思いますけれども、何か特別なサイレンとかそういう装備はあったのでしょうか。もし、なければ、そういった津波対策をなぜ備えていなかったのかという理由の部分をお願いいたしますか。こちらについては、西山さんにもお伺いしたい部分で、同じ質問と、あと、ほかの原子力発電所では、同じように津波警報システムが何らかの形でリンクされて、ちゃんと備わっているのかという部分につい

て教えていただけますか。お願いします。

A：（東電）今回の被災者の皆さまへの賠償金に関しましては、文科省さんに設置してくださっています審査会の指示に従って適切にお支払いをしていく状況でございます。私どもの方は、これと併せて、期限が来た社債の償還も行うということになります。津波警報でございますけれども、私どもの発電所では、気象庁さんが発信されています緊急地震速報のシステムを利用いたしまして、地震が発生した場合にはそこから情報を得ることになります。緊急地震速報の中に津波警報まで含まれているかどうかについては確認させていただきますけれども、基本的には気象庁さんからの緊急地震速報を利用しています。

A：（保安院）原子力安全・保安院ですけれども、津波の来ることについて、警報システムが原子力発電所の運転について何か連動するような、その警報システムでうまく制御できるようなことがあるのかについては、今まで聞いたことはないと思いますけれども、確認してみます。

Q：細野さんはまだ御戻りではない。もう帰られてしまったのですか。

○司会

もうすぐ戻ると思います。

Q：では、今の部分に関連して、西山さんにお伺いしたいんですけれども、これは、IAEA のレポートの中では、日本でこういった優れたシステムがあるにも関わらずこういった情報が今回の東電さんのケースではリンクされていなかったという書き方をされているんですけれども、こちらについては西山さんはレポートを御覧になって、160 ページ近くあって、ちょっと私も全部は読み切れていないので、西山さんはどうかと思うんですけれども。こちらは御覧になっていらっしゃるのでしょうか。

A：（保安院）済みません、見ておりません。

Q：私も不勉強で申し訳ないんですけれども、西山さんも保安院でこちらに出ていらっしゃる身として、IAEA のレポートについて読んでいないというのは非常に残念なんですけれども、こういった理由なんですか。

A：（保安院）ポイントは勉強しておりますけれども、全体を読むだけの時間がないかもしれませんでした。

Q：済みませんが、では、次回のときまでにこの部分、少なくとも 80 ページにこちらの記述があるということで、そちらについて読んでいただいて、こちらについて改めてコメントをお願いいたします。こちらについては松本さんをお願いいたします。

A：（保安院）分かりました。

Q：細野さんが戻られたら、ちょっとこちらの部分についてもお伺いしたいんですけれども、よろしいですか。

○司会

はい。それでは、細野補佐官が戻りましたら、細野補佐官向けの質問は受ける形にさせていただきまして、それ以外につきましては、先ほど御質問がなかったと思いますので、以上で質疑を終わりにさせていただきたいと思います。東京電力から今日の作業状況についての説明をさせていただき、その後、細野補佐官が戻りましたら、その分の質疑を受けさせていただきたいと思います。

<東京電力からの本日の作業状況説明について>

○東京電力

まず、原子炉への注水の状況でございます。1号機は3.5 m³/h、2号機は4、3号機は10 m³/hでの注水を継続いたしております。1号機の窒素封入でございますけれども、本日17時の値といたしまして、格納容器の圧力が134.6 kPa、窒素の封入量が5万m³でございます。4号機の使用済燃料プールの注水でございますけれども、14時31分～16時38分にかけて約150 t注水を行っております。同じく4号機の原子炉ウェル機器貯蔵プールへの注水です。8時23分～14時31分にかけてウェルの水張りを行っております。2号機の使用済燃料プールの温度ですけれども、本日17時現在32℃になります。3号機の使用済燃料プールの代替冷却装置の設置工事に関しましては、引き続き配管の敷設、フレキシブルホースの取り付けを行っております。タービン建屋の地下のたまり水ですけれども、こちらは、2号機、3号機とも現在、プロセス主建屋への移送を行っております。6号機に関しましては、仮設タンクへの移送を本日も行いました。集中廃棄物処理建屋のプロセス主建屋の水位でございます。初期値からの増加量で現在5,931 mm。本日、午前7時と比べますと70 mmの上昇になります。

OP で申し上げますと、4,714 mmになります。約 90 cmほど、5,600 に対して余裕がございます。雑固体廃棄物減容処理建屋ですけれども、本日 17 時の値といたしまして、3,755 mm。本日の 7 時と比べますと 3 mmの上昇になります。各トレンチの水位でございます。1 号機はダウンスケール中。2 号機は、3,757 mmで、本日午前 7 時と比べますと変化はございません。3 号機は、3,873 mmで、本日午前 7 時と比べますと 5 mmの下降になります。タービン建屋の水位ですが、1 号機は 4,920 mmで変化なしです。2 号機は 3,743 mmで 1 mmの低下です。3 号機は 3,844 mmで 6 mmの低下になります。4 号機は 3,854 mmで、2 mmの上昇になります。それから、1 号機の原子炉建屋の水位ですけれども、4,464 mmで、本日午前 7 時と比べますと 17 mmの上昇になります。飛散防止剤の散布ですが、本日の実績といたしましては、クローラードンプによりまして 6 号機のタービン建屋東側にて 8,300 m²実施いたしました。有人によります散布は南護岸周辺について 5,250 m²の散布になります。本日は、リモートコントロールによります瓦れきの撤去は作業の実績はございません。ロボットによる瓦れきの撤去ですけれども、3 号機の原子炉建屋 1 階の瓦れきのコンテナ積み込みと搬出を予定しております。それから、4 号機の原子炉建屋、使用済燃料プール底部の支持構造物の設置工事ですが、本日もコンクリート打設の準備で配管の敷設を行っております。水処理した水を受ける大型タンクですけれども、本日も 6 基搬入、6 基据え付けで、都合 83 基ということになります。本日の原子炉建屋でございますけれども原子炉圧力計の設置工事が終わっておりまして、明日は窒素封入ラインのホース取り付けと敷設作業を原子炉建屋 1 階で行う予定になります。それから、質問の残りでございますが、2 号機の今回の作業に伴いまして、3mSv を越えた者は 5 名おります。個別の線量については今、確認しているところになります。先ほど、ヨウ素の濃度について御質問がございましたけれども、3 月 27 日に $1.3 \times 10^7 \text{Bq/cm}^3$ で観測されていたものが、6 月 22 日の時点で計算いたしますと $6.6 \times 10^3 \text{Bq/cm}^3$ でございますので、ほぼ 2,000 分の 1 という状況になります。濃度的には合っているものではないかと考えています。

○司会

今の御説明で御質問もある方はいらっしゃいますか。細野補佐官に対する御質問のある方はどれぐらいいらっしゃいますか。お 1 人。済みません、今、ちょっとどうなるか分からないということでございますので、恐縮でございますけれども、明日、また御質問をいただくことでよろしいでしょうか。申し訳ございません。それでは、本日の記者会見は以上で終わりにさせていただきたいと思っております。明日はまた 4 時半からを予定しております。改めてメールにて御連絡させていただきます。本日はどうもありがとうございました。